特別調査

有給休暇の取得に関する調査

－ 24年度有給休暇が『75%以上の取得』は3割強となり、1年前と変わらず －

はじめに

政府は、「過労死等の防止のための対策に関する大綱」において、2028年までに年次有給休暇の取得率を70%とすることを目標としている。なお、厚生労働省が公表した24年の取得率は65.3%と過去最高となったものの、目標に届いていないことから、政府は企業等に対して取組推進を働きかけている。

こうしたなか、当社では勤務先の有給休暇の取得状況などについて把握するため、10月上旬に県内勤労者400人を対象にインターネットによるアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

アンケート調査の結果

（1）前年度の有給休暇の取得状況

－「全て取得した」「25%未満」が高い－

全ての回答者に、前年（2024年）度の有給休暇の取得状況を尋ねたところ、「全て取得した」「25%未満」（ともに18.5%）の割合が最も高くなった（図表1）。なお、「全て取得した」「75%以上」を合わせた『75%以上の取得』は31.3%となった。

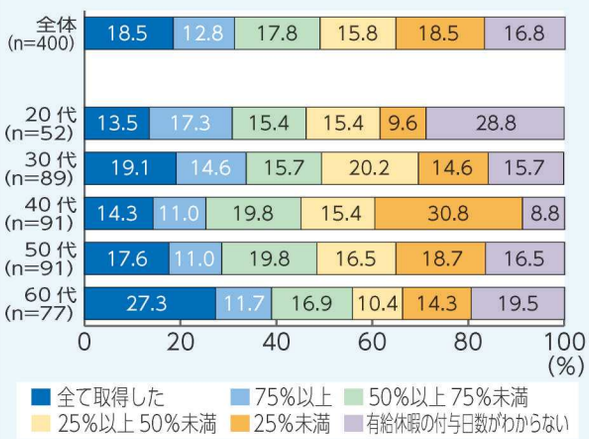
〈前回調査との比較〉

－『75%以上の取得』は前回と同じく31.3%－

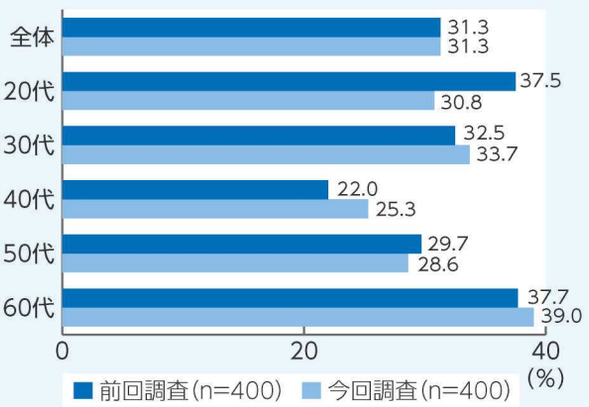
当社では24年冬に同様の調査（以下、前回調査）を実施している。『75%以上の取得』の割合は31.3%と、前回調査と同様の結果となった（図表2）。

『75%以上の取得』の割合を年代別にみると、30代と40代、60代が上昇した一方、20代と50代で低下しており、特に20代で大きく低下した。

■ 図表1　有給休暇の取得状況（年代別）



■ 図表2　『75%以上の取得』の前回調査との比較（年代別）



（2）勤務先の有給休暇を取得しやすくする取り組み

－勤務先で『取り組んでいる』のは６割弱－

全ての回答者に、勤務先の有給休暇を取得しやすくする取り組みを尋ねたところ（複数回答）、「職場の人員を増やす」（16.5%）、「適切な人員配置をおこなう」

(16.3%)、「年次有給休暇の取得を上司等が呼びかける」(15.8%)の割合が高くなった(図表3)。これらを合わせた『取り組みをしている』は58.5%となった。

(3)勤務先の働き方などに関する取り組み

勤務先の働き方や有給休暇の取得に関する要望や課題などを尋ねたところ、以下のような声が聞かれた。

【気兼ねなく有給休暇を取ることができる体制】

・自分の好きなタイミングで有給休暇を取得することが当然という雰囲気ができている(60代男性)
・他の方に迷惑をかけてしまうと思うと、自由に有給休暇を取得できない(60代女性)
・有給休暇や交代勤務の時間など働き方について、従業員で話し合い、意見具申もしている。経営陣は意見を真剣に受け止めてほしい(50代女性)
・出勤時間の調整による時間の有効活用を検討してほしい。そうした工夫の積み重ねで、まとまった休みを遠慮なく取得できるようになると良い(40代女性)

【個人の自由、都合に合わせた有給休暇の取得】

・有給取得は取りやすさだけでなく、働きたい人には働いてもらい、金銭に変えられるなど、選べると良いと思う(40代女性)
・週休3日制や時間単位での休暇取得など、自由な時間の使い方ができる制度の導入を望む(50代女性)

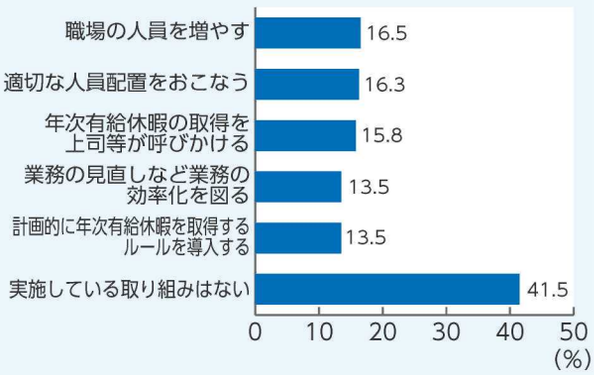
【有給休暇取得のための効率化、生産性向上】

・管理職として、繁忙期を考慮しながら各自が希望通り休暇が取りやすいように調整している(40代男性)
・有休休暇が自由に取得できるように、人員の増加に加えて、仕事の方法をマニュアル化して誰でもできるよう徹底しておく必要がある(30代女性)
・時差出勤などの制度並びに多能工の育成やDX化による効率的な仕事の進め方が必要となる(40代男性)

まとめ

今回の調査をみると、24年度の有給休暇取得が『75%以上の取得』との割合は31.3%と、前回調査と同様の結果となった。なお、回答者からは有給休暇の取得率の向上だけでなく、個人の希望に合わせて自由に取得したいとの要望が多く寄せられた。さらに、実現に向けた方法として、「仕事のマニュアル化」や「出勤時間の調整による時間の有効活用」「DX化による効率的な仕事」などの取り組みを進める必要性を訴える意見があげられた。「従業員で話し合い、意見具申もしている。経営陣は意見を真剣に受け止めてほしい」といった声にあるように、従業員の考えや提案を聞きながら、自社の実情に合った働きやすい職場づくりを進めていくことが期待される。　(2025年11月　近)

■ 図表3　有給休暇を取得しやすくする取り組み
(複数回答、上位項目のみ)



[調査の要領]

1．調査時期
　2025年10月上旬
2．調査方法
　インターネットによるアンケート調査
3．調査の対象者
　インターネット調査会社の登録モニターのうち県内の勤労者400人

		人数	構成比(%)
合計(内訳)		400	100.0
性別	男性	200	50.0
	女性	200	50.0
年代	20代	52	13.0
	30代	89	22.3
	40代	91	22.8
	50代	91	22.8
	60代	77	19.3
婚姻	未婚	178	44.5
	既婚	222	55.5

(注)図表の数値は四捨五入をしているため、回答割合の合計が100.0%とならない場合がある

特別調査

生成AIの利用に関する調査

－ 生成AIの利用は仕事、プライベートともに1年前と比べて10ポイント以上の上昇 －

はじめに

生成AI※の普及が急速に進んでおり、総務省「令和６年度版情報通信白書」によると、現在は第４次AIブームに入ったとも言われている。

こうしたなか、当社では生成AIの利用状況や課題などについて把握するため、10月上旬に県内勤労者400人を対象にインターネットによるアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

※生成AIとは
コンピュータがデータのパターンや関係を学習し、人間のように新しいものを作り出すことができる技術。テキスト生成、画像・映像生成、音声生成などの用途がある。

アンケート調査の結果

（１）生成 AI の利用状況

①仕事での利用

－『仕事で利用』は２割強－

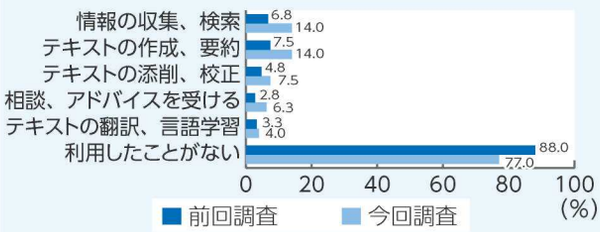
全ての回答者に、仕事での生成AIの利用状況を尋ねたところ（複数回答）、「情報の収集、検索」「テキストの作成、要約」の割合が最も高く、14.0％となった（図表１）。これら生成AIについて１つでも「仕事で利用したことがある」（以下、『仕事で利用』）は23.0％となった。

〈前回調査との比較〉

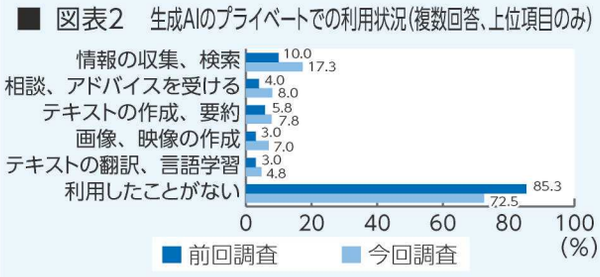
－『仕事で利用』は11.0ポイント上昇－

当社では24年冬に同様の調査（以下、前回調査）を実施している。前回調査と比べて、「情報の収集、検索」「テキストの作成、要約」の上昇幅が大きかった。

■ 図表1　生成AIの仕事での利用状況（複数回答、上位項目のみ）



■ 図表2　生成AIのプライベートでの利用状況（複数回答、上位項目のみ）



なお、『仕事で利用』の割合は11.0％上昇した。

②プライベートでの利用

－『プライベートで利用』は３割弱－

全ての回答者に、プライベートでの生成AIの利用状況を尋ねたところ（複数回答）、「情報の収集、検索」の割合が最も高く、17.3％となった（図表２）。以下「相談・アドバイスを受ける」「テキストの作成、要約」などの順となった。これら生成AIについて１つでも「プライベートで利用したことがある」（以下、『プライベートで利用』）は27.5％となった。

〈前回調査との比較〉

－『プライベートで利用』は12.8ポイント上昇－

前回調査と比べると、「情報の収集、検索」「相談、アドバイスを受ける」「画像、映像の作成」が大きく上昇した。また、『プライベートで利用』の割合は12.8ポイント上昇した。

（2）課題、利用しない理由

－「情報が正確でないことがある」が３割強－

全ての回答者に、生成AIを利用するうえでの課題または利用しない理由を尋ねたところ（複数回答）、「情報が正確でないことがある」の割合が32.8％と最も高くなった（図表３）。以下「利用・活用する方法がわからない」「個人情報や機密情報の流出など、セキュリティ面で問題がある」などの順となった。

前回調査と比べると、「情報が正確でないことがある」「個人情報や機密情報の流出など、セキュリティ面で問題がある」などが上昇した一方、「利用・活用する方法がわからない」などが低下した。

（3）生成 AI の活用方法や効果、課題

生成AIの活用方法や効果、課題などについて尋ねたところ、以下のような声が聞かれた。

【活用方法、効果】

・新入社員向けや経営陣向けなどと指定すると、対象に合った文章を作成してくれて便利である（40代女性）
・職場で生成AIとRPAを組み合わせたツールを利用しており、作業が効率的に進められる（60代男性）
・悩みを聞いてもらうとスッキリする（60代女性）
・助言型のAI投資を利用しており、アドバイスを参考にしている（20代男性）

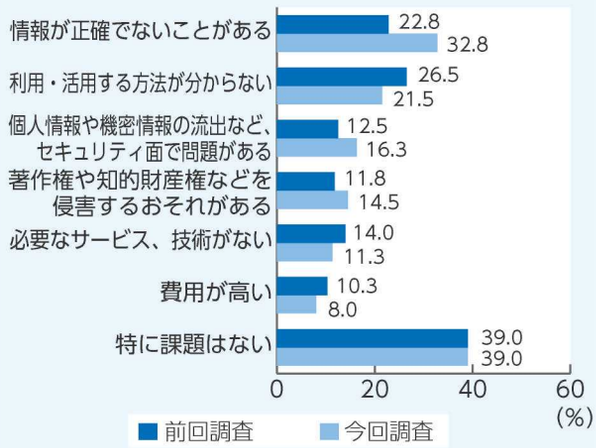
【課題など】

・生成AIに頼ってばかりいると、自分で考える能力が衰えてしまう気がする（30代男性）
・作業時間の短縮などのメリットがある反面、使い方を間違えるとリスクの方が大きいこともあり、注意して使わなければならない（50代女性）
・生成AIの知識を定着させずに利用すれば、企業や日本の技術が流出する可能性がある（40代男性）

まとめ

今回の調査では、生成AIの『仕事で利用』は23.0％、『プライベートで利用』は27.5％となった。いずれも前回調査と比べて10ポイント以上の上昇となっており、生成AIの利用拡大がうかがえる。

■ 図表3　課題、利用しない理由（複数回答）



生成AIを利用するうえでの課題をみると、「情報が正確でないことがある」「個人情報や機密情報の流出など、セキュリティ面で問題がある」が前回調査に比べて上昇した。生成AIに対する認知や理解が広がるなか、生成AIの利用には重大なトラブルを招くリスクもあることも同時に周知されているとみられる。生成AIの効果的な利用をさらに進めるとともに、AIリテラシーを向上させ、目的に合わせた安全で正しい活用方法が求められる。

（2025年11月　近）

[調査の要領]

1．調査時期
　2025年10月上旬
2．調査方法
　インターネットによるアンケート調査
3．調査の対象者
　インターネット調査会社の登録モニターのうち県内の勤労者400人

		人数	構成比（%）
合計（内訳）		400	100.0
性別	男性	200	50.0
	女性	200	50.0
年代	20代	52	13.0
	30代	89	22.3
	40代	91	22.8
	50代	91	22.8
	60代	77	19.3
婚姻	未婚	178	44.5
	既婚	222	55.5

（注）図表の数値は四捨五入をしているため、回答割合の合計が100.0%とならない場合がある